



## 聞き方の具体的なコツを 学び練習する機会をつくろう

インクルーシブ教育研究者・博士（障害科学）野口晃菜

今回のでこぼこポン!のテーマは「話をうまく聞く発明品」です。

でこりんがぼこすけに対して、今度発明品の発表会をすることについて話しています。けれど、ぼこすけはでこりんの方を見ているものの、無表情で無反応。でこりんは「もういい」と話すことをやめてしまいます。ぼこすけはその姿を見て、「ちゃんと聞いていたよ」と言っていますが、でこりんは「ちゃんと話を聞いてくれていないんじゃないか」と不安になっている様子です。

ぼこすけのように、相手が不安になっていることに気が付かずに話を聞いたり話をしたりする子どもがいます。実際に本人は聞いているのですが、相手には聞いているということが伝わりづらく相手が不安になったり、怒ったりしてしまい、関係性が悪くなってしまいうこともあります。**本人は聞いているので、なぜ急に怒られるのか、なぜ急に話すのをやめてしまうのかがわからなかったり、いつの間にか嫌われてしまったり、本人にとってもつらい経験となってしまいます。**背景には、**相手にどのように「聞いている」と示すのか、反応の仕方をそもそも知らない、相手の不安な表情や言動に気が付きづらい、**などがあります。例えば「あいづちを打つ」など、相手との関係性を良好に保つ話の聞き方は日常の中でなんとなく習得する人もいますが、学ぶ機会や練習をする機会が必要な子どももいます。

番組の中では、ポンの提案により、でこりんは相手の不安を視覚的にわかりやすく示す「フアンダー」を開発します。ぼこすけが再度無反応のままでこりんの話を聞いているときにフアンダーの色が変わり、ぼこすけはでこりんの不安に気づくことができます。ポンが「うんうん、へえ～、そうなんだ」の三つのあいづちのコツをぼこすけに伝えることで、ぼこすけはあいづちを打ち、でこりんの不安もなくなります。同じように、相手の話を聞いていることを示すことが難しい子どもについては、相手を不安にさせないあいづちの打ち方のコツを学ぶ機会をつくることも一つの手立てです。その後も、でこりんの話を最後まで聞かずにあいづちを打つことや、よそ見をして話を聞くと、でこりんが不安になることもフアンダーを通じてぼこすけは知ることができます。

今回ぼこすけが学んだ聞き方のコツは、

- あいづちの打ち方
- 相手が話し終わるまで待つ
- 相手の方を見て聞く

の三つです。このように、なかなか他者の話を聞くことが難しい子どもには、お互いに良い関係性でいるための話し方や聞き方のコツを本人にとってわかりやすい方法で学び、練習する機会をつくるのが大切です。その練習を踏まえて実際に実践をすることで、お互いに気持ちよく関わられた成功体験が、次も聞き方のコツを実践する行動につながり、好循環をつくることができます。